

d&b R1 V3 リリース ノート

R1 リモートコントロールソフトウェアバージョン 3 は、Ethernet を介した OCA (AES70)(対応機種 D80, D20, 30D, 10D と DS100) テクノロジーと CAN-Bus (D80, D20, 30D, 10D, D12, D6, 液晶付き E-PAC)を用いた d&b リモートネットワークを使用して d&b システムをリモートコントロールします。d&b リモートネットワークの詳細や CAN-Bus については TI 312 d&b リモートネットワークを参照下さい。Ethernet ネットワークについては TI 310 Ethernet ネットワーキングを参照下さい。

オペレーティングシステム要件

Windows: Win7 以降

macOS(Intel): 10.12 以降

macOS(M1): 11.0 以降

注意: Apple による変更により、macOS 10.15(Catalina)は、リモートインターフェイスとして R60 に対応し、直接 USB 接続を使用して D6 ファームウェアをアップデートできる最後のバージョンです。

インストールのヒント

- ファイアウォールの設定で "mDNSResponder.exe" をブロックしている場合は、ブロックを解除して下さい。

V3.16.2

機能拡張:

- [Sound object routing]がコントロールに追加され、個々のファンクショングループ内の各 En-Scene サウンドオブジェクトを調整またはミュートできるようになりました。
- 新たな Soundscape ファンクショングループ「Outfill embedded」と「Delay line embedded」への対応が追加されました。
- [Spread]コントロールのステップサイズの精度を 0.001 から 0.01 に低減しました。
- ArrayCalc が提供する「Ready for R1」情報への対応が追加されました。

バグ修正:

- スナップショット作成時に拡大された EQ が [Snapshots & System settings] ビューに表示されなくなりました。
- DS100 Scenes の [Sync...] ボタンは、R1 を再起動せずに新たなプロジェクトをロードしてもブロックされなくなりました。
- 画像を含むテンプレートを追加しようとするクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- ArrayProcessing を有効にしたスピーカーのディレイ値を扱うコントロールでは、デフォルト値として 6.2 ms が使用されるようになりました。
- AutoCreate を使用してグループを作成しても、プロジェクトをロードする際に警告がポップアップされなくなりました。
- DS100 出力チャンネルの EQ タブを最初にアクティブにしたときに EQ カーブが表示されないことがある不具合を修正しました。
- [Coordinate mapping] タブの OSC パス参照を修正しました。
- ターゲットが割り当てられていないリモートアイテムを貼り付けると、[unassigned] アイコンが表示されるようになりました。

注意: Windows では、ソフトウェア内部のアップデート機能を使用して R1 V3.16.2 の以前のバージョンから自動アップデートすることはできません。
www.dbaudio.com から手動で最新バージョンをインストールしてください。

注意: R1 v3.16.2のWindowsバージョンは、64ビットオペレーティングシステム用に作成されており、手動でダウンロードしてインストールする必要があります。これは、すべてのユーザーに推奨されるバージョンです。

R1の32ビットバージョンが必要な場合は、[ソフトウェアアーカイブ](#)からダウンロードできるR1 v3.14.1を使用してください。

注意: WindowsバージョンのR1 v3.16.2は、Peak-USB および Peak-PCI CAN インターフェイスには対応しなくなりました。

Peak-USB または Peak-PCI に対応するバージョンのR1が必要な場合は、[ソフトウェアアーカイブ](#)からダウンロードできるR1 v3.14.1を使用してください。

02/2021

V3.14.1

機能拡張:

- 44S ラウドスピーカーに対応しました。

バグ修正:

- macOS で、R1 アプリケーションをある画面から別の画面に移動した後、リモートコントロールのプロパティを編集する際にR1がクラッシュすることがなくなりました。
- Windows で、タッチスクリーンがインストールされているか、Windowsの「アクセシビリティ機能」が有効になっている状態でビューを開いた際に、R1がクラッシュすることがなくなりました。
- 元の名前が数字で終わっているスナップショットを複製する際に、予期せず新しい名前が短縮されることがなくなりました。
- 開かれているポジショニングビューに戻る際に、R1は以前に表示された領域を正しく記憶するようになりました。
- チューニングモードで、フレームをクリックした際にコントロールが非表示になることがなくなりました。
- テキストコントロールのデフォルトのサイズと色に変更され、より使いやすくなりました。

10/2020

V3.12.3

バグ修正:

- プロジェクトファイルが macOS 上の共有 OneDrive フォルダに保存された際に、R1で「The project file was changed in another program: プロジェクトファイルは別のプログラムで変更されました」というメッセージが表示されなくなりました。
- スピーカーの設定を変更してもR1がランダムにフリーズしなくなりました。
- [Picture]コントロールで、[day and night]モードを区別できるようになりました。
- グループツリーの一部を移動またはコピーしても、グループの内容が失われることがなくなりました。
- ヘルプコンテンツにKSL-SUBのインピーダンス値を追加しました。
- 更新プログラムのチェックの設定(R1 Preferences > Updates)が正しく反映されるようになりました。
- EQの[Save as...]と[Open...]ダイアログが2度表示されなくなりました。

08/2020

V3.12.1

機能拡張:

- KSL-SUB ラウドスピーカーに対応しました。
- 高解像度スクリーンとの互換性が向上しました。(新しいアイコンを含

む)

- DS100 内のシーンを管理および制御するために[Device scenes]が追加されました。
- シグナルディレイを実際の音速に合わせるために DS100 に追加された [Ambient temperature]パラメーターの制御に対応しました。
- 2つの新たな DS100 En-Space ルーム[Theater - small:小劇場]と[Cathedral:大聖堂]に対応しました。
- DS100 に追加された、ファンクショングループの[Spread factor]パラメーターの制御に対応しました。

注意：KSL-SUB に対応するには、D80 をファームウェアバージョン 2.22.0 以降にアップデートする必要があります。

注意：DS100 に関連するすべての機能を使用するには、DS100 をファームウェアバージョン 1.12.01 以降にアップデートする必要があります。

バグ修正:

- [En-Space - Inputs]タブに欠落していたマトリックス入力チャンネル名を追加しました。
- ローカル編集モード ([Tuning]モードの R1 の特定のビューで鉛筆アイコンがアクティブになっている) が有効になっているリモートビューでのテンプレート名の編集ができるようになりました。
- [Matrix crosspoint]コントロールの[First input/Output]の番号を[Last input/Output]の番号よりも高い値に設定すると、クロスポイントインデックスが最大数の 64 を超えてしまう不具合を修正しました。
- ターゲットが割り当てられた複数のチャンネルコントロールを選択すると、ターゲットとして<< UNASSIGNED >>が誤って表示される不具合を修正しました。
- 同じデバイスを短時間で切断して再接続すると、複数のアンプが同じ Remote ID を使用していることを示す[Device conflict]ダイアログがトリガーされてしまう不具合を修正しました。
- SL-Series 用コントロールの THC および CPL が、マウスを使用して最大に拡大した際に位置が変更されてしまう不具合を修正しました。
- 値がすでに読み取られた後、砂時計アイコンがリモートコントロールに時折表示されたままになる不具合を修正しました。
- [Positioning]ビューの ArrayCalc venue element は、Picture によって隠されなくなりました。

03/2020

V3.10.1

機能拡張:

- SL-Series の新しい CPL 機能に対応しました。低域および中域のカップリングを個別に設定できるようになりました。(CPL low, CPL mid) すべての GSL および KSL のセットアップで利用可能です。(AP, Arc, Line)
- ArrayCalc での再計算を行うことなく、R1 で後から温度と湿度の調整可能な、すべての ArrayProcessing されたセットアップ用の新しい THC (Temperature & Humidity Control) 機能に対応しました。

注意：SL-Series 用の THC 機能と新しい CPL 機能は、最新のアンプファームウェア V2.20.00 (またはそれ以降) と組み合わせて、最新バージョンの R1 V3.10.0 (またはそれ以降) を使用する必要があります。

注意：古いバージョンの ArrayCalc または R1 に基づく既存のプロジェクトファイルは、引き続き古いファームウェアと組み合わせて使用できます。新しい機能を含む新しいファームウェアを既存のプロジェクトファイルで使用するには、ArrayCalc を使用して ArrayProcessing データを再計算し、R1 の AutoCreate 機能を再実行する必要があります。

バグ修正:

- macOS でプロジェクトを DropBox フォルダに保存する際に表示される、意図しない [The project file ... was changed in another application] というメッセージを削除しました。

- AutoCreate によって作成された TOP および SUB のグループ化されたコントロールセクションは、両方で構成されるスタックアレイの場合に重複しなくなりました。
- グループに割り当てられている「異なる値」状態のスイッチコントロール上にマウスを移動しても、プログラムがクラッシュしなくなりました。

12/2019

V3.8.1

MacOS 情報:

この新しい R1 バージョン V3.8.1 には、macOS 10.12 以降が必要です。バージョン 10.12 以前の macOS を使用している場合は、ヘリテージソフトウェアのセクションから R1 バージョン 3.8.1 を使用できます。

リンク:<https://www.dbaudio.com/global/en/products/software/software-archive/>

機能拡張:

- A-Series に対応しました。
- リモートビュー内のコントロールのサイズを簡単に変更できる「Same width」および「Same height」ツールが追加されました。
- DS100 ファームウェア v1.10.01 の改良された EnSpace 初期設定（プリディレイとマッピング）に対応しました。

バグ修正:

- OCA 接続処理の改善（ネットワークの中断に対する堅牢性が向上）。
- 3x B2-SUB CSA SUB アレイ構成の自動作成が修正されました。
- 結合された venue エLEMENTのスケールリングと回転は、DS100 の初期設定が考慮されるようになりました。
- SUB アレイおよびリンクされたラウドスピーカーの DS100 Soundscape の初期設定で、計算された中間値が使用されるようになりました。

10/2019

V3.6.11

バグ修正:

- 相対的なフェーダーポジションを含むスナップショットを呼び出すと、それまでに保存されていたフェーダーポジションが呼び出されます。
- Windows 10 Defender 「フォルダーアクセスの制御」によって保護されているフォルダにあるプロジェクトファイルを開いても、R1 インスタンスがブロックされなくなりました。保護されたフォルダにプロジェクトを保存できるのは、Windows 10 Defender 機能を使用してアクセスを許可した場合のみです。

07/2019

V3.6.10

バグ修正:

- 3x B2-SUB CSA SUB アレイを構築する際の自動作成アルゴリズムが修正されました。
- ズーム倍率が 100% を超えるときに入力フィールド内をクリックしても、マトリクスクロスポイントコントロールのポップアップが閉じないようにになりました。
- マトリクスクロスポイントコントロールのポップアップは、ISP シグナルが点滅していたり、Tab キーが押されていても、ユーザー入力を受け付けるようになりました。
- システムセッティングの作成中のネットワーク使用率が向上しました。これにより、システムセッティングの作成時間が短縮されます。
- 大量のコンテンツを含むシステムセッティングをリコールしても、R1 がクラッシュしなくなりました。
- 自動作成された DS100 「Input」 「Output」 ビューと Soundscape 「En-Space zones & room」 ビュー内のメーターコントロールが再定義されました。
- 最小値と最大値がメーターコントロールの隣にあるフェーダーコントロー

ルに揃えられます。マーカー位置のデフォルト値は-2dbFS です。

- 自動作成された DS100 「Input」 ビュー内のメーターコントロールが、「Matrix input level pre fader」の代わりに「Matrix input level meter post fader」を使用するように更新されました。
- 入力フォールバック/入力オーバーライドモードと状態の値を組み合わせたスナップショットリコールが、不規則なフォールバック/オーバーライド状態を引き起こさなくなりました。

06/2019

V3.6.7

機能拡張:

- B8-SUB に対応しました。

バグ修正:

- 軽微なバグ修正と改良。

04/2019

V3.6.5

バグ修正:

- LoadMatch 機能での KSL8-Arc、KSL8-Line、KSL12-Arc、および KSL12-Line セットアップの最大スピーカー数の設定を修正しました。
- デバイスリセット機能が再び有効になりました。
- DS100 マトリクス入力/マトリクス出力/En-Space ゾーン EQ には、接続されているデバイスの実際のフィルターが表示されるようになりました。
- 出力コントロールを非表示にしたマトリクスクロスポイントコントロールで、クロスポイント内の空白部分をクリックするとクラッシュしてしまう不具合を修正しました。

02/2019

V3.6.3

機能拡張:

- マトリクスクロスポイントコントロールを改善しました。
- 新たな En-Space ルームパラメータの「Predelay factor」と「Rear level」への対応が追加されました。(DS100 ファームウェア V1.08.00 以上が必要)
- Meter、LED、display のコントロールのサイズを再定義しました。
- 追加のスケールまたはウェイ情報はコントロールエレメントのサイズ自体に影響されなくなりました。

注:この再定義されたコントロールサイズでは、既存のプロジェクトやテンプレートを微調整する必要があります。

バグ修正:

- 同じプロジェクトで R1 と ArrayCalc を同時に使用している際に誤って上書きされないように、ロックメカニズムが追加されました。(ArrayCalc V10.6.0 以上が必要)
- メーターコントロールのウェイ情報が重ならなくなりました。
- 西アラビア数字のシステムを使用していないコンピュータで、このシステムを使用して作成されたプロジェクトを開く際に、意図しないパスワードの入力を求められなくなりました。
- 「Add to view」を使用して複数のサウンドオブジェクトコントロールを追加してもアイテムは結合されなくなりました。
- リモートコントロールのプロパティエディタでターゲットを選択しても、ターゲットフィルタが変更されなくなりました。
- Soundscape パラメータのリセットを防ぐために、オンラインの DS100 をプロジェクトに手動で追加することがブロックされました。

02/2019

V3.4.4

バグ修正:

- AutoCreate で、名前の頭に "rel."を追加した相対コントロールを作成できるようになりました。
- スナップショットの対象となるスイッチコントロールのコピー&ペーストは、チェック可能なボタンに追従なくなりました。
- 2ウェイアクティブのメーターコントロール情報が重複してしまう問題を解決しました。

12/2018

V3.4.3

バグ修正:

- リモートビューとポジショニングビューでカーソルキーまたはマウスを使用したコントロールの再配置を改善しました。
- 最初のオートクリエイトチェックでは、すべてのソースが古いものとしてレポートされなくなりました。

11/2018

V3.4.2

機能改良:

- KSL ラウドスピーカーに対応しました。
- ArrayCalc によって提供される対称ペアリンクに対応しました。
注意: ArrayCalc で対称ペアのリンクを有効にすると、関連するソースグループの ArrayVerification 機能が無効になります。
- 追加の En-Space ルーム#7 Modern-medium 2 (Bing Concert Hall, Stanford) に対応しました。
- AutoCreate 機能を拡張して、DS100 / Soundscape のグループツリーとリモートビューの作成が可能になりました。
- メーターと LED コントロールのサイズを小さくすることができるようになりました。

バグ修正:

- 非対称 SUB アレイをサポートするように AutoCreate アルゴリズムが改良されました。
- フライング&スタックアレイに対応するように AutoCreate アルゴリズムが改良されました。
- 「Digital input clock」の AutoCreate アルゴリズムのキャプションを修正しました。
- Show mode で開始するように設定されたプロジェクトでは、AutoCreate がトリガーされなくなりました。
- 読みやすさを向上させるためにシステムチェックテーブルの列幅を再定義しました。
- 回転された ArrayCalc の Venue エlementに基づいたポジショニングビューでのサウンドオブジェクトの位置の誤った描画を修正しました。
- サウンドオブジェクトコントロールをキーボードを使用してマイナス座標に移動できるようになりました。
- Tuning mode でポジショニングビューを開くと、正しいスケールで ArrayCalc Venue エlementが表示されるようになりました。
- スナップショット&システムセッティングビュー内のソート順の変更が、スナップショット&システムセッティングのリストにも適用されます。
- スナップショットの更新を中止しても、スナップショット自体は削除されなくなりました。
- マトリックスクロスポイントコントロールの作成時間が減少しました。
- 多くのスナップショットまたはシステムセッティングの内容を含むファイルをロードする際のスピードがわずかに改善しました。
- プロジェクトをローカルに保存するときに、MacOS の「Project file

changed」ダイアログが表示されなくなりました。

10/2018

V3.2.5

バグ修正:

- R1 の読み込み時間は多くのログエントリにより阻害された場合、加速されません。
- Remote ビューと Positioning ビューのプレビュー画像が表示されない不具合を修正しました。
- Positioning ビューのサイズを変更した際の画像の乱れを取り除きました。
- 回転された Positioning ビューの描画を修正しました。
- Picture controls の変更による、予期せぬサイズ変更が行われなくなりました。

07/2018

V3.2.4

バグ修正:

- * .dbac2 ファイルに基づき R1V2 によって修正されたプロジェクトを読み込む際にクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- 大量のスナップショットコンテンツを含むプロジェクトで、オンラインモードに切り替える時間が短縮されました。
- Array verification の Nominal position ラベルの誤りを修正しました。
- Positioning&Remote ビューの Picture controls の追加/移動/拡大縮小をスピードアップしました。
- グループツリー内のグループを移動する際の制限事項が削除されました。
- 画像を含む同じテンプレートファイルを 2 回ロードするとクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- AutoCreate は、ArrayCalc で指定された SUB アレイ名を使用するようになりました。
- Tuning モードで別のビューに切り替えると、Positioning ビューのスケールングがリセットされなくなりました。
- Devices ビューで 10D/30D のアナログ/デジタル入力モニタリングの切替えが有効になりました。

07/2018

V3.2.0

機能改良:

- プロジェクトの一部であるデバイスの警告とエラーを表示するための Log ビューが追加されました。
- サウンドオブジェクトコントロールが再デザインされました。
- グリッドを Positioning ビューに追加することができるようになりました。
- ピクチャーを Positioning ビューに追加することができるようになりました。
- サウンドオブジェクトコントロールを、ビューの左側にある Matrix input リストからドラッグ&ドロップを使用して Positioning ビューに追加できるようになりました。

バグ修正:

- T10 セットアップ用の ArrayVerification アルゴリズムが改善されました。

06/2018

V3.0.11

バグ修正:

- ArrayCalc からプロジェクトをロードした後のグループツリーの検証が追加されました。
- "Audio networking"は ArrayCalc の"Audio networking"機能との混乱を避けるために"DS data"に名称を変更しました。

- システムキャリブレーション/チェック機能が停止しなくなりました。
- Auto create を使用した後にチャンネルコントロールが欠落する不具合を修正しました。
- Update を使用した後にスナップショットの相対制御値が喪失する不具合を修正しました。
- "Digital clock selection"の残りの砂時計アイコンが修正されました。

05/2018

V3.0.10

バグ修正:

- リモートコントロール名を編集した後、ホームビューに切り替えるとクラッシュする不具合を修正しました。
- join/split 操作の取り消しによりクラッシュする不具合を修正しました。
- リモートコントロールテンプレートをデバイスに適切に割り当てることができるようになりました。
- ターゲットのないリモートコントロールテンプレートが割り当てられる不具合を修正しました。
- グループターゲットをリモートコントロールに適切に割り当てることができるようになりました。
- メーターリモートコントロールの軽微な不具合を修正しました。

04/2018

V3.0.9

バグ修正:

- テンプレートに混合ターゲットを割り当ててるオプションが存在しない現象を修正しました。

04/2018

V3.0.8 Beta

バグ修正:

- プロジェクトの再読み込みをした後にコーディネートマッピングを再度入れ替えます。
- コーディネートマッピングタブのコンテンツが正しく表示されるようになりました。
- Array verification がフリーズしなくなりました。
- 複数選択されたサウンドオブジェクトの不具合を修正しました。
- ポジショニングビューでのスケーリングの動作を修正しました。
- ファンクショングループのグループディレイが正しく受け入れられるようになりました。

03/2018

V3.0.7 Beta

新機能:

- System check に DS100 の出力ルーティングテストも含めました。
- R1 Help に TI 501 d&b Soundscape を含めました。

バグ修正:

- Remote view の自動生成に若干の修正を行いました。
- プロジェクトファイルを再度開いたときにチャンネル名が正しく表示されない不具合を修正しました。
- DS サブスクライブチャンネル機能のサブ機能の選択の不具合を修正しました。
- マトリックスのクロスポイントコントロールをコピー、ペーストやドラッグ&ドロップした際にターゲットの情報が無くなってしまふ不具合を修正しました。

02/2018

V3.0.4 Beta

バグ修正:

- 全体の安定性を向上しました。
- DS100 のファームウェア 1.00.06 に先行サポートを削除しました。R1 サービスビューよりアップデートを行ってください。
- 新しく値を入力した後にオンラインにすると、DS100 のマッピングのコーディネートが正しく反映されない不具合を修正しました。
- サウンドオブジェクト位置を含むスナップショットの保存と読み出しを行うときに生じる不具合を修正しました。

12/2017

V3.0.1 Beta

新機能:

- ArrayCalc V10 と R1 V3 が新しく統合されたプロジェクトファイルフォーマット(.dbpr)をサポートしました。この新しいプロジェクトファイルフォーマットは、ArrayCalc と R1 どちらでも読み出しと保存が可能です。
- DS100 シグナルエンジンをサポートしました。これに伴って Input, Output と Matrix の新しいビューが加わりました。
- オプションの d&b Soundscape の En-Scene と En-Space ソフトウェアをサポートしました。
- 内容を見たり、削除したりできるようにスナップショットエディターを拡張しました。

これらの新機能に関する詳細な情報は 2017 年 12 月度のソフトウェアニュースレターを参照ください。

12/2017